

4月6日近畿定例支援

近畿から8人（神戸6人、かわち野1人、尼崎1人）参加

2013年度最初の近畿定例支援が、6日取り組まれ、午前中は山元町東田仮設住宅北集会所と坂元老人



東田仮設住宅北集会所にて

憩いの家で、午後は吉野さん宅で、それぞれ健康チェックや体操、被災体験を聞く会などが行われました。神戸からの参加者6人は6日センターで一泊し、翌7日悪天候の中、女川方面へ被災地見学に出かけました。



齋藤山元町長（左）と砂金土曜日の会長（右）

齋藤町長とふれあいトーク!

山元町震災復興土曜日の会

4月6日午後7時より、普門寺において、齋藤俊夫山元町長と山元町震災復興土曜日の会の懇談会が実現しました。町が募集した町長との「ふれあいトーク」に応募したところ町長が応じたもので、議題によっては平行線をたどりましたが、終始なごやかな雰囲気ですすめられました。



今年最高の気温？夏用タイヤに履きかえました（左の撮影）

1月着任して最初のニュースで送ったのと同様の事務所前の車の写真です。前は雪に覆われていたのですが、今はすっかり暖かくなり、5日、夏用タイヤに交換しました。

早いもので、もう2か月半。今回の現地コーディネーターの任務を終え、明日帰阪します。

今後は尼崎で、被災地支援の取り組みを続けます。宮城のみなさん、近畿のみなさんありがとうございました。

(尼崎医療生協 山口寛)



「やめた職員も戻れる福島にしたい」

…福島医療生協専務の渡辺さん

4月4日、福島市にある福島医療生協を訪れ、専務の渡辺さんから、おもに原発の問題についてお話しをうかがいました。

福島医療生協のある渡利地区は比較的放射線量の高い福島市の中でも特に高いとのこと。多くの職員が不安を抱えながら、仕事を続けています。全国からの支援を受けながら、みんなが戻れる福島をとの強い思いが伝わってくる訪問でした。